

紅梅會會報



第 103 号

会長あいさつ

60 回生 三上 れつ



残暑の候、会員の皆様のお手元に本会報が届くころには秋ですが、この夏はいかがお過ごしになられましたでしょうか。暑い日々が続いたと思ったら、大雨となり、相変わらず火山活動など自然災害が続いております。今年は、戦後70年にあたり、多くのTV局や雑誌でも、今後の日本のあり方について討論されておりましたが、皆様はどのようにお考えになり受け止められたでしょうか。戦後の時代も長くなり、戦争のことを知っている会員の方々も数少なくなりました。世界はテロが繰り返されており、歴史を語り継ぐ大切さを改めて実感する今日この頃です。

私事ではありますが、6月右足が坐骨神経痛様の痛みで、歩けなくなりました。赴任地の名古屋から痛みをこらえ、何とか藤沢の自宅まで戻り、緊急入院いたしました。痛みは強くなるばかりで、日常生活上の支障が大きい患者体験を致しました。3週間大学を休みましたが、この間、入院から退院まで、そして復帰まで種々の世話や心の支えになったのは、慶應の同窓生でした。60回生の友人はすぐに駆けつけてくれ入院の手配を手伝い、元同僚の後輩は通院や外泊時などに頻繁に付き添い、車いす移動や食事などに配慮していただき、安心して療養生活を送ることができました。丁度、なでしこジャパンや錦織圭選手などスポーツ選手の活躍が報道されておりました。

私は「看護技術」を教えていた関係で、看護職者の技術は、どのくらいでプロといわれるレベルになるのだろうか考えてしまいます。コーチングなどの研究でいわれているのは、ゴルフにおけるトップ選手がプロレベルになるには、毎日2～3時間の練習(300打)をして、プロテストに合格するまでの平均年数は11年といわれています。別の研究では、スポーツである程度の高い技術の習熟にかかる時間は1万時間と算出されています。1万時間を11年で割ると900時間。1日換算では2.5時間となります。私は看護技術の授業の前に、「鍛錬」という言葉を伝え、千日をもって鍛、万日をもって錬と教えて、学生に1日2～3時間の練習を課しています。スポーツも看護技術も自分の身体を使い、頭と心でコントロールして目標を達成していく術ですので、あながち間違いではなかったのではないかと考えている次第です。小泉信三先生の「練習は不可能を可能にする」という言葉を学生時代から座右の銘にしておりますが、先日、導尿のデモンストレーションをする機会がありました。学生に美しい技術だといわれたときには、学生との距離が縮まったような気がしました。言葉だけでなく身体で伝えていく、エビデンスにもとづいたアートとしての看護技術の表現に、私たちはもっと根本的な追究をしていくことが必要であると思います。これは慶應看護が大切にしてきたことだと思います。

2018年に100年を迎える慶應看護は発展を続けていることは誠に喜ばしいことですが、一方で、母校の教育に携わる卒業生は少なく、臨床ではリーダーとしての博士の学位も論議される時代となり、その点では非常に遅れていると言わざるを得ません。せめて、慶應の精神などについて、大切に継承していくことの必要性を痛感しております。

秋号の主な内容

- ◆第72回紅梅会総会の報告 2ページ
- ◆看護医療学部だより 5ページ
- ◆「慶應看護100年記念事業資金」の進捗状況報告 2ページ
- ◆新入会員の紹介・学部生の活動 6ページ
- ◆慶應義塾大学病院のトピックス 4ページ
- ◆世代をつなぐ [Link age] 活躍する同窓生 7ページ
- ◆第38回紅梅会研修会のお知らせ 7ページ

第72回 紅梅会総会の報告

第72回紅梅会総会報告

準備委員 学5回生 酒井 香織

2015年5月10日、84名の同窓生の方々にご出席いただき、東京ガーデンパレスホテルにて、第72回紅梅会総会を開催いたしました。今年も厚生女子学院28回生から看護医療学部8回生まで、幅広い年齢層の方々にご参加いただき、盛会のうちに無事終了いたしました。

講演会では、「毎日働き続ける膝に感謝」というテーマで、慶應義塾大学病院スポーツ医学総合センター教授である松本秀男先生にご講演をしていただきました。変形性膝関節症の症状や治療について、大変分かりやすく、楽しくお話ししていただき、参加者は興味深く講演を聴いておられました。

その後、花岡眞佐子さん（60回生）による乾杯あいさつの後、懐かしい学生時代の思い出話や近況報告に盛り上がりました。会の終盤では、阿部美津子さん（28回生）より手話を教えていただき、「四季の歌」を斉唱しました。



2010年から「春」「夏」「秋」「冬」と教えていただきましたが、今年はその集大成として1年を通して歌うことができ、会場内も大変盛り上がりました。同窓会員の絆を改めて感じることができると共に、青春時代がよみがえった方も多かったのではないかと思います。世代を超えた深い交流に、瞬く間に時間は過ぎていきました。

今回ご参加いただいた同窓生の皆様、並びに同窓会を開催するにあたってご協力いただいた皆様に深く御礼申し上げます。来年度も紅梅会の発展に寄与できるよう、企画して参りたいと考えております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第72回紅梅会総会 審議事項報告

書記 89回生 北村 悦子

事業計画としては、今年度も「慶應看護100年記念事業支援活動」のための募金活動を継続すること、医学部創立100年新病院棟建設事業への協力を行なっていくことなどの報告がありました。その他、昨年度総会で提案事項となっていた「特別会員」については、紅梅会資産が徐々に減少していることをきっかけに話題となった事項であるという経緯を説明し、その後の情報収集の結果、希望者が限られていること、紅梅会にご協力いただいている方々へは会報送付などを行なっているなどの理由から審議事項として取り上げないこととし承認を得ました。

紅梅会総会に参加して

進6回生 寺田 敦子



神田明神の御囃子と御神輿の掛け声を耳にしながら、5月10日の第72回総会に級友と共に参加しました。

恩師である三上会長の挨拶では、先輩諸姉の功績と尽力への感謝の言葉が述べられ、又、2018年の慶應看護100年に向けて、「慶應看護100年記念事業支援活動」の諸準備の募金状況報告も行われました。太田看護医療学部長、鎮目看護部長より報告を伺い、慶應看護の現状の理解を深めることができました。

講演では、「膝」をテーマにユーモアをふまえ笑い声が会場に満ち溢れた、スポーツ医学総合センターの松本教授のお話を聞き、膝の愛おしさを感じる時間でした。

私は卒業して36年が過ぎ、医療機関では約10年、地域の医療10年、介護事業で16年たち、昨年からは介護の相談室を立ち上げました。地域の住民や法人を対象に「仕事と介護の両立支援」の仕事をしています。

今後も「慶應看護」の誇りを背に頑張りたいと思います。ありがとうございました。

「慶應看護100年記念事業資金」の進捗状況報告

2018年に100年を迎える慶應看護教育の記念事業活動資金のご協力をお願いしてから、すでに1年が経過しております。これまでの途中経過は紅梅会総会でご報告させていただきましたが、皆様のご協力によって6月現在、1400万円となっております。経過とともに募金状況は横ばい状況です。2017年3月までに目標の2000万円を達成するには、厚生女子学院・短大・学部卒業生のさらなるご支援・ご協力が必要です。すでに多大なご協力いただいた紅梅会の皆様には深く感謝申し上げますとともに、これからご協力いただく卒業生の皆様にも、引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

今回も募金趣意書、募金要綱、事業概要・用途に関する資料を同封させていただきました。どうぞよろしくお願い申し上げます。（既にご支援を頂いた方への同封は控えさせていただきます。）

（慶應看護100年記念事業支援活動委員長 60回生 菅原 スミ）

2014年度 収支決算報告書

2014年4月1日から2015年3月31日まで(単位:円)

△は減額を表す

科目	予算額(案)	決算額	増減	備考
1. 事業活動収入				
1) 会費収入	3,700,000	3,187,000	△ 513,000	
(1) 終身会費	3,000,000	2,250,000	△ 750,000	
(2) 年会費	700,000	937,000	237,000	
2) 総会参加費	1,000,000	724,000	△ 276,000	
3) 広告料収入	50,000	65,000	15,000	
4) 寄付金収入	0	21,800	21,800	
5) 雑収入	10,000	69,845	59,845	
(1) 預金受け取り利息	10,000	4,445	△ 5,555	
(2) その他	0	65,400	65,400	名簿代他
事業活動収入計	4,760,000	4,067,645	△ 692,355	※1
2. 事業活動支出				
1) 会議費支出	1,680,000	1,276,982	403,018	※2
(1) 総会関連費	1,200,000	949,691	250,309	
(2) 役員会関連費	480,000	327,291	152,709	
① 役員会	10,000	6,996	3,004	
② 役・委員会	180,000	177,187	2,813	
③ 編集委員会	100,000	57,028	42,972	
④ 準備委員会	40,000	16,296	23,704	
⑤ 研修委員会	60,000	33,408	26,592	
⑥ 役員推薦委員会	2,000	0	2,000	
⑦ ホームページ委員会	18,000	0	18,000	
⑧ 慶應看護100年記念事業委員会	70,000	36,376	33,624	
2) 事業費支出	4,450,000	2,132,088	2,317,912	
(1) 研修会費	50,000	58,108	△ 8,108	
(2) 会報発行費	1,400,000	1,357,312	42,688	
(3) 慶應看護100年記念事業費	3,000,000	716,668	2,283,332	※3
3) 管理費支出	1,380,000	1,322,936	57,064	
(1) 人件費	900,000	909,404	△ 9,404	
(2) 通信費	180,000	167,504	12,496	
(3) 消耗品等費	200,000	184,028	15,972	
(4) ホームページ業務委託費	100,000	62,000	38,000	
4) 卒業記念費支出	130,000	79,516	50,484	
5) 看護医療学部支援関連費	40,000	0	40,000	
6) 連合三田会関連費	30,000	33,000	△ 3,000	
7) 予備費	50,000	12,960	37,040	
事業活動支出計	7,760,000	4,857,482	2,902,518	
慶應看護100年記念事業費を除いた決算額	4,760,000	4,140,814	619,186	※4

※1 2013年度の名簿作成に関連して2014年度は会費を納入する会員が大幅に増えましたが、終身会費は予想人数を下回ったため会費収入は予算額に達することはできませんでした。

※2 会議費支出は各委員会の努力もあり支出を抑えることができました。

※3 慶應看護100年記念事業費の用途は基金利息等の印刷代、郵送料、募金の振込代です。残額はすべて2015年度に繰り越します。

※4 慶應看護100年記念事業費は資産から運用しているものであり、それらを引いた額を示しています。これが2014年の実際の会費の収支です。

2015年度 収支予算(案)

2015年4月1日から2016年3月31日まで(単位:円)

科目	予算額(案)	前年度(2014年度)予算額	差異	備考
1. 事業活動収入				
1) 会費収入	3,700,000	3,700,000	0	
(1) 終身会費	3,000,000	3,000,000	0	30,000×100人
(2) 年会費	700,000	700,000	0	1,000×700人
2) 総会参加費	1,000,000	1,000,000	0	
3) 広告料収入	50,000	50,000	0	
4) 寄付金収入	0	0	0	
5) 雑収入	10,000	10,000	0	
(1) 預金受け取り利息	10,000	10,000	0	
(2) その他	0	0	0	
事業活動収入計	4,760,000	4,760,000		
2. 事業活動支出				
1) 会議費支出	1,672,000	1,680,000		
(1) 総会関連費	1,200,000	1,200,000	0	
(2) 役員会関連費	472,000	480,000	-8,000	※1
① 役員会	10,000	10,000	0	
② 役・委員会	180,000	180,000	0	
③ 編集委員会	100,000	100,000	0	
④ 準備委員会	40,000	40,000	0	
⑤ 研修委員会	60,000	60,000	0	
⑥ 役員推薦委員会	2,000	2,000	0	
⑦ ホームページ委員会	10,000	18,000	-8,000	※2
⑧ 慶應看護100年記念事業委員会	70,000	70,000	0	
2) 事業費支出	3,733,302	4,450,000		
(1) 研修会費	50,000	50,000	0	
(2) 会報発行費	1,400,000	1,400,000	0	
(3) 慶應看護100年記念事業費	2,283,332	3,000,000		※3
3) 管理費支出	1,380,000	1,380,000	0	
(1) 人件費	900,000	900,000	0	
(2) 通信費	180,000	180,000	0	
(3) 消耗品等費	200,000	200,000	0	
(4) ホームページ業務委託費	100,000	100,000	0	
4) 卒業記念費支出	120,000	130,000	-10,000	※4
5) 看護医療学部支援関連費	20,000	40,000	-20,000	※5
6) 連合三田会関連費	30,000	30,000	0	
7) 予備費	88,000	50,000	0	
事業活動支出計	7,043,332	7,760,000		※6 ※7

※1 2014年度の実績から再検討し、前年度より減額しています。

※2 ※1と同様です。

※3 慶應看護100年記念事業費初年度計上額3,000,000円(資産より)から、2014年度支出分716,668円を引いた額になります。

※4 2014年度の実績から再検討し、前年度より減額しています。

※5 2014年度の実績から再検討し、前年度より減額しています。

※6 資産で運用する慶應看護100年記念事業費が含まれています。

※7 慶應看護100年記念事業費以外の本年度の事業活動費支出予算額は4,760,000円で、資産以外の事業活動収入で運用する予定です。

慶應義塾大学病院のトピックス

1. 看護師寮『クレール御苑前』『セレスト四谷三丁目』オープン

ワンルームタイプの看護師寮が病院の近隣に2棟新しく開設されました。

『クレール御苑前』は外苑西通りに面し10階58室あります。『セレスト四谷三丁目』は大京町に位置し4階44室あります。どちらも、3交代勤務をする看護師への配慮が厚くされている設計で、20～27㎡と都心で暮らしやすい快適な環境となっており、オーナーの慶應義塾に対する感謝の想いで一杯です。これにより、近隣のワンルームタイプの看護師寮は5棟245室となり、専任看護師の約25%が居住できることになりました。また、老朽化が進む紅梅寮、白梅寮は、改修工事計画が進められています。 (78回生 鎮目 美代子)



『クレール御苑前』



『セレスト四谷三丁目』

2. 新病院棟建設事業進捗状況

新病院棟（1号館）のデザインコンセプト「Keio Forest（杜；もり）」

信濃町周辺の豊かな緑に囲まれたロケーションを活かして、病院全体を「杜」に見立てたデザインで計画いたしました。病院の複雑な機能を保ちつつ、建築、インテリア、サイン（表示計画）、照明がバランスをとり、それぞれの空間を「杜」のイメージで表現していきます。病院という日常とは離れた特殊な環境の中で、このデザインコンセプトを活かしつつ、利用される皆様が、心地よく、安心でき、且つ機能的な空間を目指しております。

1号館Ⅰ期棟完成

新病院棟建設事業は、1号館Ⅰ期棟が竣工し8月に竹中工務店より引渡しが行われ、放射線検査や治療部門、内視鏡センター、2病棟、生理学検査室などが移転しました。Ⅰ期棟は、2号館2階と3階が渡り廊下でつながり、外来患者の動線が変わっていきます。

今後は、次の大きなステップである7号棟、中央棟、放射線棟の解体作業に取り掛かり、約2年に渡るⅠ期棟建設が本格的に始まります。

新病院棟建設事業「募金」ご協力をお願い

新病院棟は2017年度末開院を目指し、Ⅰ期棟の開設に続きⅡ期棟建設のための工事が進められております。慶應義塾大学病院を利用される方に、質の高い医療、看護サービスを提供し、よりよい治療、療養環境を作り上げていきたいと思っております。募金につきまして、今回、新病院棟建設事業のリーフレットを紅梅会のみなさま用に作成し同封いたしました。是非とも皆様のお力添えを宜しくお願いいたします。詳しい内容はリーフレットをご覧ください。

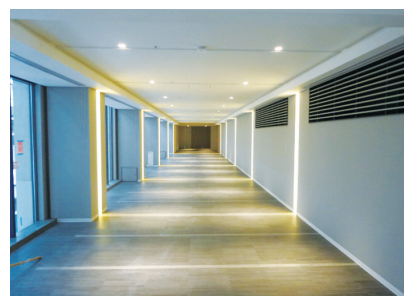
<新病院棟建設予定スケジュール>

- ・2015年8月～ : 1号館Ⅰ期棟開設
- ・2015年9月～2016年2月 : 7号棟、中央棟北側など解体工事
- ・2016年3月～2018年3月 : 1号館（新病院棟）Ⅱ期棟建設工事
- ・2018年5月～2020年2月 : 1号館（新病院棟）
2号館連絡棟建設工事など

(78回生 鎮目 美代子・85回生 梅田 光代)



1号館（新病院棟）Ⅰ期棟南面



1号館と2号館渡り廊下（2階部分）



慶應義塾赤倉山荘 www.sanshikai.jp/akakura/index.html

赤倉山荘に泊まってみませんか？

雄大な自然、豊富な湯量を誇る温泉、数多くのスポーツ施設に囲まれた慶應義塾赤倉山荘には、美食・温泉はもちろんのことゴルフ、スキー、テニス、トレッキングなど季節ごとの楽しみ方があります。合宿・研修会はもちろん、ご家族やお友達と赤倉山荘へ。塾関係者のご利用をお待ちしています。

お申し込み・お問い合わせ

赤倉山荘
電話：0255-87-3900 FAX：0255-87-3905
e-mail：ak-ko@hyper.ocn.ne.jp

赤倉山荘管理事務局（三四会内）
電話：03-3359-0227 FAX：03-3358-0664
e-mail：info@sanshikai.jp

「歴史のなかに、未来が見える」 慶應看護100年史編纂・アーカイブ事業

慶應義塾における看護教育は、2018年（平成30年）に100年を迎えます。これを記念して、1918年（大正7年）の大学部医学科附属看護婦養成所設立に始まる慶應義塾の看護の歩みをまとめた「慶應看護100年史」の発行を計画しています。

慶應看護100年史の編纂は、「歴史のなかに未来が見える」をコンセプトに、これまでに蓄積された多くの文献・資料の調査や関係者へのインタビューを構成し、時代を経ても変わらぬ慶應看護の真髄とはなにかを伝え、慶應看護の次の100年の構想につながる内容を目指しています。

また、慶應看護100年記念事業では、慶應看護の歩みを伝える文献や資料を広く収集して次世代に継承する「慶應看護アーカイブ事業」も並行して行っています。収集した資料は整理や修復の後、資料の状態にあわせて保存方法を検討・保管し、可能なものはデジタル化をすすめています。これらの資料は歴史研究などにお役立ていただけるようデータベース化するとともに、貴重な資料については展示による公開も計画しています。

（慶應看護100年誌編纂委員会 小池 智子（81回生））



上段
左 病院正門
中央 内科診察室
右 整形外科処置室

下段
左 病院全景
中央 薬局
右 修学旅行 日光

<昭和13年
卒業アルバムより>

慶應看護100年に向けて、資料の寄贈にご協力ください。

慶應義塾看護100年編纂委員会では、これまでに、慶應看護の歴史における貴重な資料として、1938年（昭和13年）と1942年（昭和17年、皇紀2602年）の2冊をデジタル化してきました。紅梅会ルームには、1925年（大正14年）の第5回卒業記念をはじめ、戦前・戦後のアルバム数十冊が保管されています。それぞれに歴史を感じさせる貴重な資料ですが、残念ながら劣化しているものも少なくありません。今後は、これらを次の世代に残せるよう保存方法や保管場所、紅梅会員の皆様が必要な時に閲覧できる方法などを検討していく予定です。

また、慶應看護にまつわる書籍や写真の他、時代の流れとともに変遷してきた白衣や、看護用具（実習用具）なども収集し、これらの展示も企画しています。

そこで、会員の皆様のお手元に保存されている様々な慶應看護に関連する史料について、ご寄贈をお願い致します。「こんなもの…」と思われるような品でも慶應看護の歴史の重要な一面を後世に伝える大事な資料となります。是非とも、ご協力くださいますようお願いいたします。

○慶應看護卒業生関連

実習ユニフォーム、アルバム、講義ノート、学生新聞、会報、同人誌など

○慶應義塾教員・職員関連

看護白衣、ナースキャップ、書類、講義ノート、看護用具（実習用具）など

○写真・映像・音声 慶應看護に関連する建物、人物、風景、行事、クラブ活動など

<連絡・送付先>

〒252-0883 神奈川県藤沢市遠藤 4411

慶應義塾大学看護医療学部 慶應看護100年記念事業委員会 宛

- * ご寄贈いただきましたものは、看護医療学部が受取証を発行し、大切に取り扱い保管いたします。
- * ご寄贈いただいたものは、保管方法や処分についてご一任頂いたものとします。返却をご希望される場合は、その旨をご連絡ください。
- * なお、同一資料・史料をすでに所蔵している場合など、所蔵スペースの関係からお申し出をお引き受けできない場合がございます。あらかじめご了承ください。
- * 貴重資料に関しては、慶應義塾がお預かりをする寄託制度もございますので、ご相談ください。



<昭和17年
卒業アルバムにより>

2015年3月卒業の看護医療学部11回生新入会員の紹介

友永 遥

三井住友海上火災保険株式会社



私は、三井住友海上火災保険株式会社の産業看護職として働いています。弊社は約2万人の社員がおり、その一人一人に産業看護職が担当として付き、健診の手配から事後措置、日々の健康相談等、社員の健康の保持増進を支援しています。私は、産業看護職として日々やりがいを感じており、会社の一員として、専門性を高めるだけでなく社会人としてのルールやマナーをしっかり身に付けたいと考えています。これからも社員の健康管理のため、どのように専門性を発揮できるのか諸先輩方から学び、自分なりの産業看護を確立させていきたいです。

竹田 全範

名古屋大学医学部附属病院



私は、名古屋大学医学部附属病院に就職しました。4月から心臓外科、7月からは消化器内科・血液内科で働いています。この病院は、卒後研修として内科と外科をローテーションできることが特徴です。4月は予想していた以上に動けず、「何もできない自分」を見るのが辛い毎日でした。しかし、熱心に指導して下さる先輩方の存在が大きく、「毎日必ず成長している」ことに気が付いてからは、気持ちがとても楽になりました。

これからも辛いことはあると思いますが、看護をさらに好きになれるように頑張っていきたいと思っています。

上中 優希

慶應義塾大学病院



私はこの4月から慶應義塾大学病院9S病棟（血液内科）で働き始めました。学生実習の経験から血液内科で働きたいと考えていたため、配属が決まった時は嬉しさと同時に身が引き締まる思いでした。血液内科に入院される患者さんは抗がん剤治療や造血幹細胞移植など、副作用の大きな治療を受けられており、命の大切さと看護師の責任の重さを日々実感しながら働いています。9S病棟の先輩方は本当に指導に熱心であり、毎日たくさんのことを学ばせていただいています。ひとりでも多くの患者さんの役に立てるよう、これからも努力していきます。

小島 早織

慶應義塾大学病院

私は現在慶應義塾大学病院の手術室で働いています。自分の未熟な部分を思い知らされる毎日ですが、できないことと向き合う楽しさを感じることができるようになってきました。患者さんが心身共に手術に向かう準備ができるよう援助すること、全身麻酔下で意識がなくても患者さんの尊厳を重視した看護をすること、といった見えない看護を実践できる場に難しさとやりがいを感じています。手術を円滑に進めることができるよう勉強に励むと共に、患者さんの背景を理解し、様々なサインに対応できる看護師になれるよう成長していきたいです。

学部生の活動

医事振興会という場所

私たち医事振興会は1952年に発足し、今年で63年目を迎える伝統あるサークルです。医学部と看護医療学部の学生が合同で活動し、それぞれの医療知識の共有や、地域の医療施設での活動を通して学びを深めることを主としています。

今年度は15名程度の新入生を迎え入れ、総勢40名程度で活発に活動しています。月一度の例会は、視覚障がいを持つ方の視野体験、認知症についての学びの共有、医療現場におけるコミュニケーション手法の取得といった内容で行い、学生のうちから医療現場に対する視野を広げています。

また、年に2度のメイン活動である夏活動・春活動では、山梨県甲州市塩山に宿舍を構え、障がい児童とのコミュニケーションや高齢者施設での日常生活の介助やレクリエーションを通して、地域医療に対する学びを深めています。

僕自身、医事振興会の学部間、学年間の隔たりのない交流によって、充実した学生生活を送れており、OB・OGの方との交流にも広く門戸を開かれていることがこのサークルの魅力だと感じています。その他にも、部員同士での食事や、バーベキュー、温泉旅行など季節のイベントも多数あり、学びと遊びを両立できる環境が整っています。

このサークルの副代表を務めていることが、自分にとって大きな経験となっています。これから仲間とともに、医事振興会の発展に努めながら、医療職者を目指す者として、自らを高めていきたいと思っています。
(看護医療学部3年 飯嶋 諒)



ラオスでの活動を通して

学7回生 松本 紫織

2014年7月からラオス人民民主主義共和国（以下ラオス）サラワン県で、青年海外協力隊の助産師隊員として活動しています。

ラオスは、国家樹立以降長年にわたり内戦が続いた影響があり、社会・経済開発が大幅に遅れ、国連から最貧国（LDC）と位置付けられている国です。サラワン県は人々の年間平均収入922ドルと国内でも比較的貧しい地域で、県内で生活する56521世帯、387742人の人々のうち24%は貧困世帯であると政府から定義づけられています^{※1}。また、宗教や使用言語がそれぞれ異なる少数民族の方々も多く生活しています。

私が活動するサラワン県病院の産婦人科では、年間約1500件の出産があります。分娩介助にあたる看護師のほとんどは数年以上の実地経験を積んでいるものの、助産技術に関する専門的な勉強をしたことがありません。そこで妊娠・分娩ケアに携わる看護師及び助産師の知識・技術の向上を協力隊活動の主な目標とし、分娩中の胎児モニタリング技術や出生直後の新生児の観察および蘇生技術の向上などについて勉強会を開催したり、医療機材支援などを行ったりしています。また、スタッフの知識や技術が日々の現場で有効的に発揮されるよう、皆で話し合いながら物品や薬剤の整理整頓などの5S活動^{※2}も並行して行っています。

活動していく中で、目の前で亡くなっていく小さなあかちゃんの命に自分の無力さを実感して落ち込む時もありますが、「きっと今日のこの活動が、いつか未来の子どもたちを救うときが来る」と信じ、残りの任期一年間やるべきことに真摯に取り組みたいと思っています。また、私の活動を応援して支えてくれる夫、両親、兄弟、友人など全ての方々に感謝し、この地で人として助産師として逞しく成長して、笑顔で日本に帰国したいと思います。

※1 ラオス統計局 2013

※2 5S…Seiri, Seiton, Seisou, Seiketsu, Shitsuke



第38回 紅梅会研修会のお知らせ

医療従事者が
知っておきたい

「外国人患者さんへの接し方」～医療通訳を考える～

今回の研修会のテーマは“医療通訳”です。

日本を訪れる外国人は年間1千万人を超え、職場で、町で、外国人と出会うことも多くなったと実感しているのではないのでしょうか。

医療現場において「言葉の壁」は極めて重大な課題であり、医療通訳には大きな役割が期待されています。

さらに医療従事者として外国人患者さんと接する際には、医療に対する理解の違いや文化の違いにも考慮する必要があります。

2020年に東京オリンピックの開催が迫った今、医療従事者として知っておきたい外国人患者さんへの接し方について考えてみませんか？

（研修委員長 短2回生 杉浦 なおみ）

日時	2015年10月23日（金）18:00～19:30（17:30受付開始）
場所	慶應義塾大学信濃町キャンパス 孝養舎 202教室
研修会費	無料
対象	どなたでも参加できます

講師ご紹介



たかしま あいり
高嶋 愛里 氏

特定非営利活動法人多文化共生センターきょうと保健医療事業
医療通訳コーディネーター・看護師・保健師

【プロフィール】

多言語医療電話相談・無料相談会の活動を経て、医療通訳者の養成・派遣をおこなう医療通訳コーディネーターとして活動中。

ぐっすりが、いちばんのくすり。

東洋羽毛は高品質な羽毛寝具を通して
皆様に快適な睡眠と健康をお届けします。

TUK 東洋羽毛工業株式会社 〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺2-26-5

睡眠セミナーサービス
～ 無料講師派遣のご案内 ～

好評受付中！



日本人の5人に1人が睡眠に悩みを抱えている現代。東洋羽毛では「睡眠健康指導士」の資格を有した講師を無料で派遣いたします。

お問い合わせはお気軽にどうぞ

0120-410840

「社中の協力」と慶應連合三田会大会

みなさんは福澤先生の「社中の協力」という言葉をご存じですか？慶應義塾の教職員や塾生、そして卒業生（塾員）とその関係者を社中と呼び、みんなで協力し合う精神のことです。毎年10月に開催される「慶應連合三田会大会」のルーツは、その昔義塾が経営困難に陥った際に、卒業生が自主的に同窓会を開きその危機を救ったことだそうです。まさに社中の協力です。卒業して25年経つと、私たちは慶應義塾から卒業式に招待されます。その5年後には、日吉で開催される連合三田会大会を主催する立場になります。卒40年の先輩と卒10年、20年の後輩が協力して大会を運営します。私たち紅梅会のメンバーは毎年、救護部会として参加しています。卒業後50年になると、入学式にも招待され未来を担う若者たちの門出を祝福します。そして連合三田会大会にも招待され楽しい1日を過ごします。このように卒業後も社中の一員としてのイベントがたくさんあります。紅梅会同様、盛り上げて行きましょう。今年の連合三田会大会は10月25日です。ぜひご参加をお待ちしております。

(84回生 江河 都美)

2015年度紅梅会役員・委員

会 長	三上 れつ (60)	研 修	☆濱田 有紀 (学8)	役 員 推 薦	◎☆今井亜矢子 (短5)
副 会 長	☆安田恵美子 (82)		☆川崎 笙子 (学10)		向山 陽子 (54)
書 記	北村 悦子 (89)	編 集	◎倉橋 暖 (学1)	ホ ー ム ペ ー ジ	清水 由美 (短11)
	☆柳田真理子 (短6)		☆山口 尚子 (短3)		◎萩原 亜耶 (学8)
会 計	☆寺島比呂子 (短10)		☆八木友紀子 (短6)		☆中尾真由美 (短3,学1)
	川田 悠介 (学1)		☆葛城 建史 (学1)		☆清水 信輔 (学1)
会 計 監 査	☆福地美寿子 (短7)		☆小野寺 眸 (学6)		☆佐藤 優美 (学8)
	増戸 聡美 (89)		萬年 由佳 (学6)		◎☆菅原 スミ (60)
研 修	☆赤木 紀子 (短9)	園部 光里 (学8)	荒尾みつ子 (進8)		
	◎杉浦なおみ (短2)	田久保沙樹 (学8)	松浦 直子 (73)		
	☆二田水 彩 (学1)	◎江河 都美 (84)	矢野 幸子 (83)		
	小柳 淳 (学4)	武野 宏子 (短4)	瀧田 結香 (短7)		
	為我井美佳 (学6)	浅田 あや (学4)	高橋 知彦 (学1)		
		酒井 香織 (学5)	紅梅会事務	浅田 頼子 (68)	

(): 卒業回生 ◎: 委員長 ☆: 新役員・委員

紅梅会事務局より

お知らせ 会報はゆうメールでお届けしています

住所・氏名等を変更された時は、必ず事務局までご一報下さい。不在の場合は留守番電話にメッセージをお願いします。
 なお、2014年に作成した会員名簿は在庫にまだ余裕があります。購入ご希望の方は電話またはFAXで事務局までお申し込みください。
 (68回生 浅田 頼子)

在室時間 月・木曜日 13時～17時 電話・FAX 03-3341-8116

2016年前期「特選塾員推薦」受付中

2001年4月から、特選塾員規約の一部変更により、厚生女子学院卒業生も特選塾員となるできるようになり、今までに252名の方が紅梅会推薦により特選塾員とされました。塾員であるということは慶應義塾卒業生のメンバーとして、多彩な塾員間との交流ができるようになります。

紅梅会推薦として手続きいたしますので、ご希望の方は「氏名・ふりがな・生年月日・現住所・電話番号・勤務先・回生または卒業年月」を明記して、紅梅会事務局に郵送またはファックスでお送り下さい(2月28日締め切り)。

今回申込みをされた方は5月末頃の決定通知となります。なお不明なことは紅梅会事務局にお問い合わせください。

計 報

15回生 一廻穂美代(旧姓大掛)	2015年2月9日	27回生 杉浦 朝子(旧姓井上)	2015年6月29日
17回生 平澤 知栄(旧姓小平)	2015年3月24日	34回生 歌川 容子(旧姓吉田)	2015年1月29日
20回生 山崎 よき(旧姓堀井)	2014年12月30日	34回生 岩堀 昌子(旧姓川口)	2015年4月5日
21回生 内山 すゑ	2015年6月30日	55回生 井上 隆子	2015年3月19日
25回生 鈴木 廸子(旧姓中山)	2014年10月	66回生 岡本さと子	2015年3月9日

2015年7月31日現在

編 集 後 記

「紅梅会会報」は2018年に迎える慶應看護100年の軌跡です。学生や新社会人から大先輩まで、臨床・教育・地域など様々な分野で活躍する皆さんのご尽力により、この103号を発行することができたことを、心より御礼申し上げます。皆様と双方向のコミュニケーションツールとして活用いただけるよう、最新情報の提供、同窓会情報の充実などに努めて参ります。ぜひご意見等を事務局までお寄せ下さい。よろしくお祈り申し上げます。

編集委員長 学1回生 倉橋 暖